図表3-5-4 ▶グローバルクラウドビジョン

出所：NTTコミュニケーションズ「Global Cloud Vision 2016」

2013年8月、NTTコミュニケーションズは、世界32カ国で音声・Web・テレビ会議などのコラボレーションサービスを提供するArkadin社の発行済み株式91.2%の取得について主要株主と合意した。Arkadin社は、約3万7,000社の顧客に対して、音声会議、ビデオ会議、ユニファイドコミュニケーションなど幅広い会議系ソリューションを提供し、グローバルで3位のシェアを誇る企業である。NTTコミュニケーションズは、「Global Cloud Vision」のもと、これまでに「Arcstar UCaaS」や「Arcstar Audio Conferencing」などのサービスを展開してきたが、同買収により、Arkadin社が有するグローバルな顧客対応力とサービス提供基盤を取り込み、会議系サービスの国際展開力とユニファイドコミュニケーション中心のトータルソリューション提供力を一層強化した。

さらに、2024年11月、NTT DATA, Inc.は、Google Cloudを活用したクラウドエンジニアリングサービスを提供するNiveus Solutions Pvt. Ltd.(以下、Niveus Solutions社)を買収することに合意した。同買収を通じ、Google Cloudとのパートナーシップ及び関連ビジネスをさらに強化し、グローバルにおけるクラウドサービスの拡充を図る。Niveus Solutions社は、金融、製造、自動車、リテール、物流など多様な分野に対して、Google Cloudを活用したモダナイゼーション、データエンジニアリング及びAIソリューションを提供しており、Google Cloudのトップパートナーとして複数のパートナーアワードを受賞している。これに先立ち、NTT DATA, Inc.は、APAC地域の顧客の業界特有のニーズに対応したクラウドベースのデータ分析やAIソリューションの開発・導入を推進するため、Google Cloudとの戦略的パートナーシップを締結しており、同買収により、約1,000名のGoogle Cloud専門家を獲得するとともに、クラウドオファリングの更なる拡充と競争力強化を実現する狙いである。

以上のように、NTTグループは、グローバル・クラウドサービスの提供基盤の整備と高度化に向け、積極的なM&Aや技術革新を推進してきた。これにより、企業向けクラウドサービスの高品質化を実現し、急速に変化するクラウド市場において、競争優位性を保持し続けている。

5-3. データセンターの世界展開

(1)データセンターの拡張・高度化

NTTグループの海外データセンター事業の歩みは、NTTデータが1990年にニュージャージー州に設立した米国支店での取り組みに始まる。その後、海外でのデータセンター事業を担う役割は1999年7月に創業したNTTコミュニケーションズに引き継がれ、2000年4月から本格的な展開がスタートした。

北米、欧州、アジア各地でのデータセンター展開が進むなか、NTTコミュニケーションズは、中国・上海において、日系及び外資系金融機関からの要請に応え、業務システムの収容が可能なプレミアムデータセンターの提供を開始した。既存の施設に同社の運用ノウハウを導入することで、通信事業者として中国初となる高品質かつ信頼性の高いサービスを実現した。また、2008年3月には、ベトナムの通信事業者VNPTとの合弁会社GDS設立により、ベトナム市場へのデータセンター事業進出を果たしている。

こうしたアジア各国での展開を経て、さらに2012年1月には、インド市場における成長機会を捉え、データセンター関連サービスを提供するNetmagic Solutions Private(Netmagic社)の株式74%を取得することに合意した。ムンバイやバンガロールなどインド国内7拠点を運営し、1,000社以上の顧客に対してコロケーションやマネージド・ホスティングサービスを展開するNetmagic社は、Frost & Sullivan社から「Data Center Service Provider of the Year 2011」を受賞するなど市場から高い評価を受けていた。これにより、NTTコミュニケーションズはインド市場において、データセンター関連サービスを含むワンストップICTソリューションの提供基盤を強化し、グローバルシームレスなクラウドサービスの展開へと舵を切った。

同年5月には、英国市場の強化に向け、Gyron Internet(Gyron社)の株式85%を取得した。Gyron社はロンド